



東光中学校 建替検討委員会ニュース



東光中学校建替検討委員会（以下「委員会」）では、東光中ブロック3校（東光中学校、東光小学校、堅粕小学校）の校舎の老朽化に伴う建替えを契機に、3校の小規模校の課題を解消するための取組みを含めた建替えの方向性などについて協議しています。

令和7年5月29日（木）に第2回委員会を開催し、前回意見が出ていた「建替えパターン及び効果と課題（裏面参照）」等をお示しし、意見交換を行いました。

第2回委員会の主な意見

- パターン①のメリットが一番多いように思う。「歴史ある学校の名前を残したい」など様々な思いがあると思うが、子どもたちの教育だけを考えると、パターン①がよいのではないかな。
- 結論を先に急ぐのではなく、小中学校をどのようにしたらよいか、それぞれの校区で意見を聞きながら会議を重ね、話をまとめていけば良いと思う。
- 建替えのパターンについて、それぞれに対し賛成、反対ということではなく、それぞれのメリットと課題を比較して議論していくのが現実的ではないかな。
- 自分の子どもは6年間クラス替えがなかったが、資料を見て、多くの人と交わることができる環境はとても大事だと思った。
- 子どもの数は今後減少傾向。校区の人間として子どもたちのことを考えれば、まず子どもたちの教育環境をベストの方向に持っていくのが一番ではないかな。

建替えの想定スケジュール（目安）



今後の進め方

- ・4つの建替えのパターンについて、委員の各所属団体で協議いただき、その結果を持ち寄って、次回の委員会で議論する予定です。

お問い合わせ先

東光中学校建替検討委員会事務局
（教育委員会学校計画第1課）

TEL : 711-4252 FAX : 733-5539

E-mail : gakkokeikaku.BES@city.fukuoka.lg.jp

建替えパターン及び効果と課題

※効果及び課題は、国の資料等から引用

	① 小学校を統合し中学校と施設一体型で整備	② 小学校を統合、中学校は単独で建替え	③ 1 小学校と中学校を施設一体型で整備	④ それぞれを単独で建替え
イメージ	C中 A小 B小 統合 D小中	C中 A小 B小 統合 C中 D小 ※C中は校舎のみ建替え	C中 A小 B小 E小中 B小 ※B小は校舎のみ建替え	C中 A小 B小 C中 A小 B小 ※それぞれ校舎のみ建替え
効果※	○統合による小規模校の教育課題の解消 ○小中連携教育の充実	(D小) ○統合による小規模校の教育課題の解消	(E小中) ○小中連携教育の充実 (B小) ○小規模校の良さを活かした教育活動	○小規模校の良さを活かした教育活動
課題	○通学距離が長くなる場合の児童の負担面や安全面などに配慮する必要がある。 ○小学校高学年のリーダー性・主体性が育ちにくい、行事などでの工夫が必要。	○通学距離が長くなる場合の児童の負担面や安全面などに配慮する必要がある。	○中学校ブロックでの小中連携教育の内容に差が生じる。 (E小中) ○通学距離が長くなる場合の児童の負担面や安全面などに配慮する必要がある。 ○小学校高学年のリーダー性・主体性が育ちにくい、行事などでの工夫が必要。 (B小) ○小規模校の課題解消を図ることが難しい。	○3校とも、小規模校の課題解消を図ることが難しい。

※上記効果の主な具体的内容

○統合による小規模校の教育課題の解消	○小中連携教育の充実	○小規模校の良さを活かした教育活動
・社会性やコミュニケーション能力が高まる。 ・多様な意見に触れる機会が増える。 ・クラス替えが可能になる。 ・集団での教育活動や学校行事等が充実する。 ・多様な学習・指導形態をとりやすくなる。 ・競い合いが生まれ、向上心が高まる。 ・切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上する。 ・教職員の数が増え、より多面的な指導が可能。	・中学への進学に不安を覚える児童が減少するなど、「中1ギャップ」が緩和される。 ・上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まり、下級生は上級生に対するあこがれの気持ちも強まる。 ・子どもたちの交流機会が増え、多様な人間関係を作ることができる。 ・小中の教員が協働した学習指導が可能。 ・9年間を通して継続的に指導ができる。 ・縦割り活動や小中合同での行事等、教育活動や学校行事等の幅が広がる。	・家庭的な雰囲気の中で学習ができる。 ・運動会でも、出場機会が多いなど、一人ひとりの活躍の場面が多い。 ・特別教室や体育館も余裕をもって使うことができる。 ・教員は学校全体の子どもに目が行き届きやすい。